



野外運動研究室ニュースレター

編集：筑波大学野外運動研究室広報係
発行：筑波大学野外運動研究室
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
TEL/FAX 029-853-6339
URL <http://yagai.tsukubauniv.jp/>

【巻頭言】

「はてさて、厳しい世界に飛び込んでしまったものだ。」
坂谷充(特任助教)

私は大学3年生の時に初めて野外運動研究室の扉を叩きました。卒論・修論ともに井村先生にお世話になり、大学院では坂本先生の勉強会やキャンプに参加し、当時の技官(現特任助教)は渡邊先生、後輩には前任の向後先生・・・という環境で学生時代を過ごしました。大学院を修了してからは4年間、中学校の教員を勤めましたが、野外の世界への憧憬を捨てきれず一念発起して大学の世界へ戻ってきました。学生の頃の私は嫌いな勉強から目を背け、楽しい楽しい実戦ばかりに没頭していました。そんな私が大学の教員に!同期の友人にこの話をすると驚かれますが、ろくでもない学生だった私がこの世界に戻ってきたのは、野外教育の楽しさや効果を味わった学生時代の体験、そして先生方から声をかけていただいたからです。

さて、約6年ぶりにつくばに戻ってきましたが、当時と変わらない町並みに暖かく懐かしい気持ちになりました。しかし、変わったなと感じたことが多いのも事実です。その中でも特に、外国人学生の多さに驚くとともに、時代の流れを感じました。国際化・情報化、現代社会は急速なスピードで変化しています。そのような高度情報化社会だからこそ、今まさに野外教育の必要性を感じています。太陽が昇ったら起き、太陽が沈んだら寝る。あるがままの自然を五感を通して感じる。もっともシンプルで、本来の人間としての姿なのではないでしょうか。では、この時代に野外教育が果たす役割は?野外教育のoriginalityとは何で、どのような意味を持つのでしょうか。ぜひ学生のみなさんもそのような視点で野外教育や野外スポーツと向き合ってみてください。

そしてもう一つ、変化の時代を生き抜くために私が大切だと思っていること、それは“学び続けること”です。日々新たな発見が生まれ、今ある情報は明日にはもう古くなっているかもしれません。卒業したら勉強しなくていい、なんて思いませんか?社会に出てからが本当の意味での勉強かもしれません。(それでなくても生涯勉強です。)書き出しは、この世界に飛び込んだ時の私の最初の感想です。そんな大学の世界の真っ只中にいる私ですが、「毎日コツコツと続けることが大切だ!」を合言葉に、学び続けていきたいと思えます。

【正課事業報告】

○整備実習
日付：4月1日～3日
参加者：室員

中村綱希(UG4)



今シーズン初めての野外研公式行事として、上記の日程で整備実習を行った。例年、整備実習は新専攻生が部活等でなかなか参加できない状況が続いていたが、今年度は新専攻生が多く参加してくれたため、作業がスムーズに進んだ。また、上級生が下級生にロープワークを指導する場面もあり、室員同士の仲を深めることができ、良いスタートが切れたように感じる。

○筑波大学体育専門学群新入生オリエンテーション

吉沢直(UG4)

日時：4月9日
指導：佐藤、大友、新井、吉沢



平成27年度の体育専門学群新入生を対象に行われた新入生オリエンテーションにおいて、野外運動研究室の室員がアイスブレイキングの指導を担当しました。

全体240名という大人数に対し、班分けをせずに全体が同じ種目に取り組む形でゲームを行いました。慣れない形で少し戸惑いもありましたが、会が進むにつれ徐々に打ち解けあっていく新入生の姿も見ることができ、私たちも良い時間を過ごすことができました。

○第1回卒業研究・修士論文中間発表会

西島隆成(UG4)

日時：4月16日
発表者：大関、西島、吉沢、大友、佐藤



上記の日程で第1回中間発表会が行われた。卒業研究は大関、西島、吉沢の3名、修士論文は大友、佐藤の2名が発表を行った。内容や進捗状況は様々であった

が、先生方からのアドバイスや学生からの質問などは、発表者にとっていい刺激になったのではと思う。質疑応答の時間には、新専攻生が積極的に手を挙げ質問している姿も見受けられたので、とても雰囲気の良い発表会になったのではと思う。

○実技理論実習 I (野外運動)
「デイキャンプ」1年男子

大友あかね(MC2)

日時：5月27・28日

指導：渡邊先生、佐藤、大友、新井、前川



体育専門学群 1年生を対象にした実技理論実習 I 「野外運動」のデイキャンプが上記日程で行われた。それまでの授業の中で学んだ、様々な野外での技術(ロープワーク、

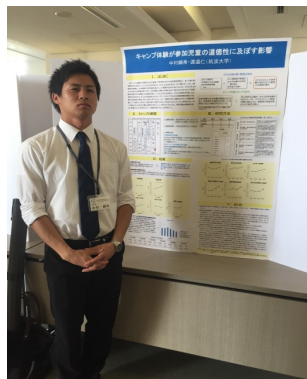
テント設営、火起こし等)を活用して1泊2日、野性の森で過ごすというプログラムであった。入学間もない1年生を対象にした授業であったが、授業開始直後はぎこちなかった仲間との関係もより一層深まり、大学生活のスタートに相応しい2日間になったのではないかとと思われる。

○Camp Meeting in Japan 2015

中村綱希(UG4)

日時：5月30日

参加者：渡邊先生、佐藤、大友、新井、中村



上記の日程で公益社団法人日本キャンプ協会主催の第19回キャンプ会議が国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた。様々な立場で野外運動、キャンプに関わる方々と意見を交わすことで新しい発見もあり、とても充実した発表となった。今回の発表により、今後の実践や研究

へのモチベーションが更に高まったと感じる。

○実技理論実習 I (野外運動)

「デイキャンプ」3年女子

新井洸真(MC1)

日時：6月3日、4日

指導：佐藤、大友、黒須、新井、大関、前川



上記の日程で体育専門学群3年生の女子のデイキャンプが行われた。このデイキャンプは、授業のまとめの位置づけで、学期初めから取り組んできた、テント設営や火熾し、ロープワークなどの技術を使いながら一泊二日のキャンプを野性の森で実施した。デイキャンプ当日の午前中はあいにくの雨で、野性の森のコンディションは悪く、学生たちは濡れた地面にテントをたてることに戸惑いを感じ、湿った木で火熾しすることに四苦八苦していましたが、楽しみながら活動に取り組んでいた。学生たちのレポートを読んでも、それぞれに感じたことがあったようで、実りある実習になったのではと思う。また、今回のデイキャンプでは、3年生も積極的にスタッフとして関わってくれ、スタッフ自身の勉強の機会にもなった。

く、学生たちは濡れた地面にテントをたてることに戸惑いを感じ、湿った木で火熾しすることに四苦八苦していましたが、楽しみながら活動に取り組んでいた。学生たちのレポートを読んでも、それぞれに感じたことがあったようで、実りある実習になったのではと思う。また、今回のデイキャンプでは、3年生も積極的にスタッフとして関わってくれ、スタッフ自身の勉強の機会にもなった。

【オプション】

○八甲田バックカントリースキーツアー

大友あかね(MC2)

日時：5月1日～5日

参加者：佐藤、大友、新井



今年もGWのオプションツアーとしてバックカントリースキーツアー(BCツアー)が行われた。メインプログラムである八甲田BCツアーは、雪が少なく

予定していたプログラムは実施することができなかった。が、現地で出会った山岳会の方々の宴に参加させていただき、翌日には南八甲田ツアーに同行させていただいた。ツアーでの舞台となった南八甲田は地元の人以外は足を踏み入れることが少ない山域であり、しぶい山域を好む野外研のメンバーにとってはぴったりの山であった。白神山地十二湖周辺の観光、山形県月山スキー場におけるコブ練習も加わり、5日間で東北全県を移動し盛り沢山の5日間であった。この旅で出会った皆様に感謝申し上げます。

-----リレーコラム～OB・OGからのメッセージ-----



リレーコラム NO. 19
平成 13 年度修了
自然遊びクラブ主宰 **豊留雄二さん**

多くの方は「初めまして」ですね！豊留雄二（とよどめゆうじ）と申します。現在は岩手県で「自然遊びクラブ」を主宰し、自然体験活動の企画・実施や、活動の指導者として仕事をしています。団体のような形式をとっていますが、現在は一人しかいませんので、フリーランスの自然体験活動指導者と言えるかもしれません。今回のコラムでは、私が携わってきた仕事に

ついて書いてみようと思います。

私が大学院を修了して仕事に就くに当たって考えていたことは、「キャンプに携わる仕事がしたい」ということと、「民間団体で仕事をしてみたい」の2つでした。当時の大学院修了者は、大学関係か、現在の青少年教育振興機構の職員となる方が多かったのですが、学生時代にほとんど民間団体と接点がなかった（持たなかった）私は、「民間団体のことをもっと知りたい、そのためにはそこで仕事をするのが一番！」と考えました。そこで、野外研の先輩である佐々木さんが運営されているくりこま高原自然学校の職員にいただきました。

4年間お世話になった自然学校では、学生時代とは全く異なる経験をたくさん積むことが出来ましたし、それまで関心のなかった分野と関わることも出来ました。多くの方と知り合うことができましたし、小規模な自然学校に身を置いたことで、民間団体の現実を身をもって理解することもできました。1年目から任された主催の長期キャンプでは、プログラムの質やスタッフの指導技術を高めること以前に、スタッフ（外部ボランティア）の確保や、どうやって集客するか（参加者を集めるか）に頭を悩ませていました。当たり前のことですが、いくら良いプログラムを作っても参加者がいなくては意味がありませんし、スタッフがいなくてはキャンプの運営はできないからです。こういった課題に4年間向き合ったことや、自然学校を通して繋がった人とのネットワーク、様々な分野との関わりは、現在でも私の財産となっています。

2006年に岩手に移り住み、「自然遊びクラブ」として活動を始めましたが、フリーランスの仕事だけで生計を立ててきた訳ではありません。県立の環境学習施設を管理・運営しているNPOや、自然遊びに取り組む保育園、河川水難事故防止対策に取り組むNPOと、フリーランスと並行しながら色々な仕事に従事してきました。自然や環境、教育の分野に関係する仕事ばかりですが、ありがたいことに全て、人から誘っていただいた仕事ばかりです。人のご縁に感謝するとともに、それまでの仕事を評価していただいた結果だと思っています。

人のご縁に関して言うと、給料を頂く仕事だけではありません。そもそもフリーランスという業態での仕事の生まれ方は、直接的、あるいは間接的な人との繋がりがあって発生するものばかりです。有名人になれば違うのかもしれませんが、少なくとも私の場合はそうです。人のご縁に感謝をしながら、その時々の仕事に精一杯取り組み、良い成果を出すことがその後の仕事に繋がっていきます。そしてこれは、フリーランスに限らず、どの分野の仕事にも共通することだと思うのです。

今はまだ学生の皆さんも、ぜひ人との出会いやご縁を大切にしたいと思います。それが将来、どんな形で自分へと返ってくるかは分かりません。信頼関係を築くためには時間がかかりますが、築いた信頼が壊れるのはあっという間です。そして、壊れたモノを再構築するには、より多くの時間がかかります。そのことが分かっているならば、軽率な態度は取れないはずです。そして、今取り組むべきことを全力でやり切ることをオススメします。とかく「効率」が重視されがちな現代ですが、効率の優先は「試行錯誤」する貴重な機会を失うことでもあります。キャンプでも論文でも、前例に倣うだけではなく、深く追求してみてください。一度とことんやり切る体験をしておくことが、その後、同じような状況に陥った時に、自分自身の支えになってくれるはずです。そのための機会と時間、そして仲間がいるのが野外研だと思います。今を大切に、素敵な人生を送ってください！

【編集後記】

野外運動研究室員となって3年目を迎えました。今年は部活動もなく就職活動に力を入れ、無事就職先も決まり、内定式を控えています。これまで研究室に対して大した貢献もしてこず、強いて言えば水害で研究室が水浸しになった際に掃除をしたくらいですが、これからは恩返ししたいと思います（Y.K）。